

公共社会学科案内2021

福岡県立大学 人間社会学部 公共社会学科

PUBLIC SOCIOLOGY



ようこそ、公共社会学科へ

公共社会学は、グローバル化が進む現代社会が直面する諸課題に、個人が主体となる新しい公共性の理念に基づいて、実践的に向き合う学問です。社会学をベースに政治学、経済学、教育学、地理学、情報学など幅広い領域を結んだ学際的な教育・研究で、複雑な社会現象を読み解きます。

一人ひとりの多様性が尊重される高度福祉社会の実現に向け、地域社会と国際共生に焦点を当て、課題を見極め、解決できる人材の育成を図っています。個人がかけがえのない存在となり、社会参加による人生の充実を感じられる世界を、学生たちと対話しながら、考え、創っていきたくと願っています。

人や社会に役立つ仕事がしたいと思っている人は、ぜひお越し下さい。本学科は公立大学ならではの少人数制教育で、一人ひとりの夢を形にするサポートをしていきます。

目次

| | |
|-----------------------|----|
| ようこそ、公共社会学科へ | 1 |
| 公共社会学とは | 2 |
| 教育の特徴 | 3 |
| 地域社会ネットワーク領域 | 4 |
| アジア国際共生領域 | 5 |
| ゼミ&教員紹介 | 6 |
| 教職課程・教育実習 | 11 |
| 社会調査実習・国際交流プログラム・交換留学 | 12 |
| キャリア支援プログラム | 13 |
| 活躍する卒業生 | 15 |
| カリキュラム・コースツリー | 18 |

Public Sociology



●カリキュラム構成

公共社会学基礎論を基軸とする地域社会ネットワークとアジア国際共生の2領域、課題解決型研究のスキルを学ぶ社会調査・情報処理及びその他の関連科目群で構成しています。

<1年次> 全学共通科目を履修しながら、社会調査と情報処理の基礎を含む、公共社会学科専門教育への導入科目を学びます。

<2年次> 地域社会と国際共生に関する科目群から、各自の関心に沿った学習を組み立てていきます。1年次に学んだ情報・データ分析の能力を応用し、社会調査実習に取り組みます。

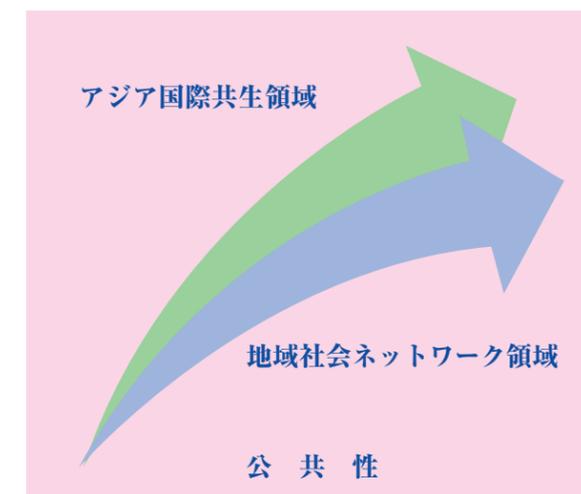
【社会調査実習】 調査の企画から実施、得られたデータの分析、報告書の作成に至るまでを学生が主体となって行います。社会の動向が表しているものを見極める能力を身に付けるのが狙いです（詳細は12頁）。

<3年次> より高度な専門科目を学びつつ、関心のある分野のゼミに入り、課題を設定し、原因を考察・分析する力を磨きます。

【公共社会学研究】 本学科のゼミ（演習）は、社会学だけでなく政治学、経済学、教育学、地理学、情報学など幅広い専門領域で構成されています。指導教員の専門ごとに分け、少人数（原則7人以下）で文献を読んだり、グループや個人による研究をしたり、ディスカッションしたりします（詳細は6～11頁）。

<4年次> 1年次から学んできた知識やスキル、思考力の集大成として、各自で設定した研究課題について卒業論文を執筆します。教員の指導を受けながら、疑問を見出し、実態を把握し、検証・考察をへて結論を導き出す、一連の論じる力を身につけるのが狙いです。

2つの履修領域



●公共社会学とは

公共社会学は、さまざまな人々が参加する対話と、対話を媒介とする公共性の重要性を認識し、地域・国際の視点から異なる社会的・文化的背景をもつ人々が対等な立場で互いに協力し合い、支えあう社会のあり方を考える学問です。

公共社会学科では、グローバル化や情報化、少子高齢化といった大きな社会変動のなかで、多様な個性を持つ人々が共に生きていける新たな公共社会の構築を、教員・学生間で議論を重ねながら考えていきます。



●課題解決力を高める

多様な人々が、互いの個性を尊重し、安心して暮らせる高度福祉社会—国内外の様々な地域で、その形成に積極的に関わり、活躍できる人材の育成を目指しています。学生たちが公共社会学をベースに、地域社会と国際共生の現場に立脚しながら、具体的な課題解決力を高められるよう、サポートしていきます。

<公共社会学科が重視する4つのポイント>

- 1 新たな公共性、地域社会、国際共生の視点を培う。
- 2 コミュニケーション能力、リサーチ能力、ITスキルを習得する。
- 3 社会のニーズを的確に把握する調査力、分析力をつける。
- 4 問題解決への企画・提案力や調整力の基礎を培う。

<卒業生が活躍する分野>

- ・地域資源(人、モノ、文化、自然)のコーディネートや、地域づくり・活性化の現場。
- ・グローバルな視点で共に生きる社会のあり方を考える、国際的な活動の舞台。
- ・ビジネスモデルを活用した社会事業団体・社会的企業。
- ・国内外に展開する民間企業。

●教育の特徴

<公共社会学の理論と課題解決型教育>

新たな公共性の視点を学びながら、それを実際の社会問題に応用し、実態を把握し、要因を分析し、課題の解決法を検討する“課題解決型研究”を多く取り入れています。そのために現場で実際に話を聞くとともに、文献や統計資料を用いて客観的な状況を調べ、理論的に考察します。頭を使い、体を動かす—その往還で、より多角的で重層的な解を導くのが狙いです。

<2つの履修領域>

新たな公共性を具体的、多角的に考えられるよう、地域社会ネットワーク、アジア国際共生という2つの履修領域を設けています（詳細は4～5頁）。

<取得できる資格・免許>

社会調査士、中学校教諭一種免許(社会)、高等学校教諭一種免許(公民)、上級情報処理士、社会福祉主事任用資格が取得できます。

<キャリア支援プログラム>

学生一人ひとりが将来の目標を定め、その実現に向け自律的に進んでいけるよう支援するプログラムです。大学での学びと卒業後の進路を有機的に結びつけるのが狙いです（詳細は13～14頁）。

地域社会ネットワーク領域

Q 地域社会ネットワーク領域が目指す教育は？

A 持続可能な地域社会の担い手の育成

人口減少と少子高齢化の進展、近隣関係の希薄化など、現代社会は大きな変化を経験し、地域社会においてはさまざまな生活課題が浮かび上がってきています。地域社会における多様な生活課題に対処し、持続可能な地域社会を構想していくためには、人々の生活に向き合い、地域住民、地域団体、ボランティア団体・NPO、企業、自治体などさまざまな人々、団体がつながりながら協働していくこと——公共を構想し築くことが大切です。多様な立場にある人々と協働し、持続可能な地域づくりを意欲的に推進していくことができる人材の育成を目指しています。

Q 地域社会の視点で何を学ぶか？

A 地域社会の仕組みや地域課題、課題解決過程を学びます

地域社会の構造や機能、現代日本の地方自治のしくみと動向、住民参加の地域づくりの現状と課題などを考える、充実したカリキュラムを設けています。それぞれの地域社会の中で人々はどうのような生活を送り、そこにはどのような生活課題が見られ、それらの生活課題を解決するには地域住民、地域団体、ボランティア団体・NPO、企業、自治体はどのような役割を果たしていけばよいのか、社会学・政治学・地理学・経済学などの観点から学びます。

Q 「現地(フィールド)に出かける」とは？

A 地域課題について現場で調査しながら考えます

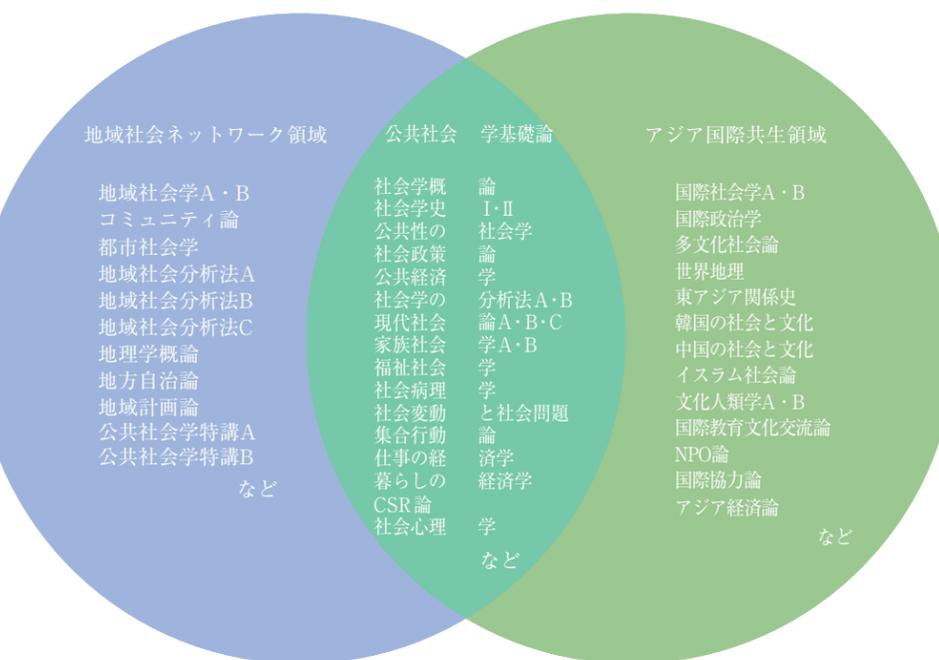
地域社会の現状についてウェブサイトや統計データ、文献資料で研究することはもちろん大切です。しかしそれだけでは、実態がわかったとは言えません。現地(フィールド)に出かけてその雰囲気を感じ、そこに住む人々と話し、地域社会の自慢や悩みに耳を傾けてみましょう。福岡県は旧産炭地からの転換を図る筑豊地域、福岡市と北九州市という異なる特性をもつ大都市、豊かな自然と農林水産業が盛んな筑後地域という、多彩な地域で構成され、アジアとの関係が深い県でもあります。多様なフィールドに出て学ぶことで、地域のさまざまな景観や暮らしに触れ、地域社会の奥深さを感じることができるでしょう。



公共性の社会学



地域社会学



社会調査・情報処理

社会調査法
社会調査の設計
データ分析の基礎
社会統計学Ⅰ・Ⅱ
質的調査法
データ処理とデータ解析Ⅰ・Ⅱ
社会調査実習Ⅰ・Ⅱ
情報数学
プログラミング概論

ゼミナール (ゼミ)

公共社会学 研究Ⅰ
公共社会学 研究Ⅱ
卒業論文

関連科目

哲学要論、倫理学
日本史概論、西洋史概論
法学概論Ⅰ・Ⅱ
社会福祉学概論
地域福祉論Ⅰ・Ⅱ
教育学概論B
生涯教育論
社会教育論、対人心理学
Webデザイン演習
など



アジア経済論



多文化社会論

アジア国際共生領域

Q アジア国際共生領域が目指す教育は？

A 地域と国際社会をバランスよく結んで活躍できる人材の育成

外国人の受入れ拡大へと舵を切り、国内各地でも多文化共生を掲げた政策や窓口が設置され始めた日本。異なる文化や宗教、言語を持つ人々と、違いを認め合い、共存していける国際的知見を培いながら、地域でも国外でも、多様化が進む社会に対応できる、バランスのとれた人材が、ますます必要です。地域社会に軸足を置く本学科は、地域と国際を切り離さず、国際的な視野を持ちながら地域で活動できる人、地域の状況を理解しながら国際社会で活躍できる人材の育成を目指しています。



<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/ken-gaiyou.html>

Q 国際共生の視点で何を学ぶか？

A グローバル化の中で多様な人々と共に生きる社会について学びます

社会学と政治、経済、文化、歴史学などを、国際的な視点で横断的に結んで学びながら、共に生きる世界には何が必要かを考えます。政治学分野では、伝統的な国家間関係では捉えきれない、様々なアクターが関与する今のグローバル社会を「人間の安全保障」という新たな枠組みで見直します。経済学分野では、国家間の経済活動に関する理論・歴史・政策を広い視野で学びながら、アジア地域を中心とするビックイシューを考えます。社会学分野では、豊かな国が富む一方、貧しい国がますます貧しくなる理由や、異なる文化への寛容性が国や地域で違う背景にある制度的、文化的要因などを学びます。

Q 福岡の地で国際共生を学ぶ意義は？

A 国を超えて地域が結びあう多様な世界像を学べる点

世界と結ぶ独自のルートがある福岡には、国連ハビタットやジェトロ福岡、JICA九州など国際的な諸機関が拠点を置き、NGO活動も盛んです。福岡を代表する基幹産業(鉄鋼や環境分野)を中心に周辺諸国間の企業交流や人材交流も活発で、東アジア経済ブロックの中で重要な役割を果たしています。

福岡から中国最大の商業都市・上海までは545マイル、東アジアのハブ空港があるソウルまでは337マイル。東京(566マイル)や大阪(289マイル)と同距離にあるアジアの拠点と直接繋がる福岡に立脚すると、国を超えて、地域と地域が直接結びあう多様な世界像、その中で地域が果たす役割を考えることができます。

ゼミ&教員紹介

●政治や文化を全員で議論しながら学ぶ



岡本ゼミでは国際的な視点に立ちながら、主に政治や文化にかかわる社会学を学んでいます。今年度前期は、韓国威徳大学(慶尚北道慶州市)の李貞熙先生(岡本先生のご友人)の学生たちとZoomによる合同ゼミを7回行いました。話し合いたいテーマを持ち寄って議論し、お互いの歴史や文化について意見交換をしながら、交流を深めることができました。また吉本興業所属の国際夫婦漫才コンビ「フランボネ」とのコラボ授業もあり、威徳大学の学生と日韓漫才コンビを作って発表したりしました。初めてのことばかりで最初は戸惑いでしたが、漫才を単なる「お笑い」と捉えるのではなく、日本の「文化」として見る事ができた、とても有意義で貴重な時間でした。今までと違う漫才の楽しみ方ができ、自身のユーモアセンスも磨かれたように感じました。

岡本先生は、元国連NGO職員で、中国留学やアメリカの大学での客員研究員など海外経験を豊富に積んでこられました。その経験をもとに、幅広い視野、多角的な視点で私達にアドバイスをしてくださいませ。また、先生の人脈が広いのも魅力的です。今年度のように海外の学生や国内他大学の学生と交流することができます(今年度は昭和女子大学人間社会学部生の社会調査研修「福岡からアジアを見る」とのコラボもあります)。ゼミの雰囲気も和やかで、落ち着いて自分の研究に取り組める環境だと思います。自身の研究テーマがはっきり定まっていなくても、新たな発見や広い視点を身につけることができるのでオススメです！

公共社会学研究I(岡本ゼミ) 浅原 玲太
京都府立南陽高校出身

●国際比較の視点から社会について学ぶ



佐野ゼミでは、日本と世界との比較を通して、様々な視点から社会を学んでいます。3年時は「グローバル現代社会論」という本を用いて演習を行いました。授業毎に決められたレジュメ担当者の発表を元に、メンバー全員でディスカッションを行い、メンバーと自分、そして筆者の考えを比較しながら内容についての理解を深めてゆきます。よくわからない単語や概念、社会学の考え方など、難しいと感じることも多いのですが、事前に読んで理解できなかった箇所もメンバーと議論する中でうまく咀嚼できるようになり、一人で文献をよんでいるだけでは気付かなかった、新たな視点に気付くきっかけにもなります。

ゼミは、とても和気あいあいとしていて、メンバーにも佐野先生にも相談や質問等しやすい雰囲気です。また、佐野先生は一人一人に対して的確にアドバイスをくださるので、やりたいことが決まっている人だけでなく、関心のある分野が定まっていなくても、卒論で何を書いているのかかわからないという人にもおすすめです！皆さんと一緒に、佐野ゼミで自分の興味や関心を探求していきましょう！

卒業論文指導(佐野ゼミ) 藤津 香凛
福岡県立東筑高校出身

●満足度の高い働き方・生き方を模索する



公共社会学科許ゼミでは、主に許先生の専門分野である経済学を学んでいます。

3年の授業では、『看護サービスの経済・政策論』(角田由佳著)という本をテキストとして扱い、章ごとに担当を決めて、パワーポイントにまとめたものの発表を行い、経済学への知識を深めています。一人でもわからない人がいると、先生は理解するまで説明してくれたり、みんなで教えあったりするので、分からないまま、になることはありません。質問や疑問を持ったら、すぐ発言できるので、楽しく学べるゼミになっていると思います。

また、許先生は韓国の出身ということもあって、毎年韓国の大学と日本の大学が集まるシンポジウムが行われ、例年であると、両国の大学生が全員どちらかの国に集まって合宿を行います。しかし、今年はコロナウイルスの影響で、韓国の大学生との直接対面した交流ではなくオンラインでのシンポジウムが行われます。それでも、日本の他大学や韓国の学生と交流することのできる絶好の機会であり、これが許ゼミの強みです。

許先生はとても優しく、フレンドリーな方なので、アットホームな雰囲気のゼミです。経済学に興味なくても大丈夫です！ゼミを通じて、一緒に多くのことを学んで、活かしていきたいと思います！

公共社会学研究 I (許ゼミ) 河野 夢太
福岡県立北筑高校出身

●都市問題と移民問題について考える



陸ゼミでは、先生の専門である都市問題、移民問題、日中社会問題を中心に各自の問題関心を広げて個別で研究を行います。都市問題、移民問題、中国社会問題などに関連する専門書を読み、論文の読み方、レジュメの作成の仕方、報告の仕方などを学びます。今まで見過ごしていた外国人労働者の問題について深く考え、各自で考えたことをディスカッションします。陸先生は中国出身なので、先生のリアルな体験談を通して、日本の良い点・悪い点を客観的に考えさせてくれます。また、豊富な経歴を持っているので、海外の現状などを知ることができ、お話を聞くだけでも視野が広がります。陸先生は「都市社会学」の担当もされていて、その講義では、都市の社会構造などを学ぶと同時に、先生の出身地である中国の都市問題などについても学べます。都市社会学を通して関心を持ったことや興味を湧かしたことについて陸ゼミで研究することもできます。

陸ゼミは先生が優しく、発言しやすい雰囲気なので、みんなの意見を通して自分の理解を深めることができます。海外に興味がある人、日本の外国人に興味がある人、日中関係が気になる人は是非是非陸ゼミをオススメしたいです！

卒業論文指導(陸ゼミ) 垣迫 美沙
大分県立大分舞鶴高校出身



岡本 雅享
Masataka Okamoto

【専門】政治社会学・国際学・民族学

【略歴&研究内容】

一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了(博士(社会学))。国際学修士(横浜国立大学国際文化研究科)。

学部生時代から日本と欧米のマイノリティ、移民政策を比較研究。大学卒業後、中国(北京師範学院、中央民族大学)に1年半留学し、少数民族二言語教育の調査研究を行う。帰国後、国連NGOに就職し、国連を中心とした人権活動に従事。大学院進学を経て本学に着任。サンフランシスコ州立大学民族学部(College of Ethnic Studies)に客員研究者として1年在籍。近年は日本型Nation Building & Ethnic Studiesとしての出雲学の構築を探究。明治学院大学国際平和研究所(PRIME)及び大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター(CAPP)客員研究員。

研究テーマは民族研究、多文化政策、国連人権活動など。

【主な業績】『出雲を原郷とする人たち』藤原書店(2016年)、『民族の創出』岩波書店(2014年)、『中国の少数民族教育と言語政策』社会評論社(2008年)など

【担当科目】政治学、国際政治学、多文化社会論、東アジア関係史など



佐野 麻由子
Mayuko Sano

【専門】社会学・開発援助と社会学・ネパール地域研究

【略歴&研究内容】

立教大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程修了(博士(社会学))。立教大学社会学部助教を経て2012年10月に本学に着任。

博士前期課程在籍中に立教大学派遣交換留学生としてネパール国立パドマ・カンニャ・キャンパス・ウイメンズ・スタディ・コースに在籍。

現在は、「ネパールにおける市場化・準市場化と男児選好」という研究テーマで女児の選択的中絶や育児放棄の要因を解明することに取り組んでいます。

【主な業績】『グローバル現代社会論』文真堂(分担執筆、2018)『開発社会学を学ぶための60冊：援助と発展を根本から考えよう』明石書店(共編著、2015年)、『国際社会学』有斐閣(分担執筆、2015年)、『国際開発と協働—NGOの役割とジェンダーの視点』明石書店(分担執筆、2013年)、『公正な社会とは』人文書院(分担執筆、2012年)など。

【担当科目】

国際社会学、国際協力論、NPO論、社会調査実習 I・II など



許 棟翰
Hur Donghan

【専門】労働経済学・労使関係論、人事と組織の経済学

【略歴&研究内容】

慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了(博士(商学))。九州国際大学経済学部教授、(韓国)明知大学経営学部副教授を経て2015年4月から本学に着任。

私の研究を一言で表現すると「満足度の高い働き方・満足度の高い生き方を模索すること」です。日本社会や経済を取り巻く環境は激しく変わっています。例えば、少子・高齢化による人口構成の変化、人々のライフスタイルや消費パターンの変化、そしてそれらの影響を受けた産業構造や経済構造の変化、非正規職の増加や雇用形態の多様化など。外部環境が変化するなか、人々の仕事や暮らしはどのように変わのでしょうか。私の研究は、将来の環境変化に備えた効率的な人事管理、そして満足度の高い働き方・満足度の高い生き方を構築する、ということにあります。大学生の皆さんは「満足度の高い大学生活」を送る必要があります。大学在学中に、私と一緒に「満足度の高い人生」を設計してみましょ。

【主な業績】

“Administration Strategy of the Break System at the aspects of Corporate Management”, KEF Compensation Quarterly, 22(1), Spring 2014 など

【担当科目】経済学、仕事の経済学、暮らしの経済学、公共経済学、アジア経済論など



陸 麗君
Lu Lijun

【専門】都市社会学・エスニシティ研究・中国の地域研究・中国語教育法研究

【略歴&研究内容】

一橋大学社会学研究科博士課程修了(博士(社会学))。農林水産省農業総合研究所(現農林水産政策研究所)特別研究員、(中国)華東理工大学社会与公共管理学院准教授を経て2019年4月から本学に着任。

これまでグローバル化のなかの都市コミュニティに焦点をあてた研究を進めてきた。現在は主に日本における華僑・華人の起業とコミュニティ、中国の「農民工」の国内移動と都市コミュニティ問題、日中コミュニティの比較に関する調査研究に取り組んでいる。

【主な業績】

『さまよえる大都市・大阪—「都心回帰」とコミュニティ』東信堂(共著 2019)、『中国の「村」を問い直す』明石書店(共著 2019)、『グローバル都市大阪の分極化の新たな位相—日本型ジェントリフィケーションの多様性』URP「先端的都市研究」シリーズ 17 大阪市立大学都市研究プラザ(共著 2019)など。

【担当科目】都市社会学、中国の社会と文化、中国語など



ゼミ&教員紹介

●都市問題、社会問題へのアプローチの仕方を学ぶ



堤ゼミでは社会問題、中でも社会的弱者に関する問題を、教育や労働、社会政策などの観点から、問題をつくり出す社会の仕組みや、その仕組みによって社会の周縁に追いやられている人々の実態について学びます。

今年度の前期はホームレスの人々と出所者を対象に学び、かれらと社会の関係について文献資料や映像資料を用いて議論してきました。

普段のゼミは、資料を分担してレジュメ化し担当箇所について発表、考えたことや疑問点を議論するという流れで進められます。明確な正解がない内容であることも多いため議論が難航する時もありますが、そのようなときは都度、堤先生が助言や解説をしてくださるため、理解できずに終わることはありません。今年度ゼミに入った私たちは、レジュメの作成や議論の進め方などまだまだ改善点が多いですが、先生にアドバイスをいただきながら日々精進しています。

堤ゼミでは普段の生活ではあまり知ることのできない人々の内情を学ぶということに加え、個人で興味関心のあることについて学び発表できるため、自分では扱わない分野の見聞を深めた上で、自身の興味関心に対しても新たな知見や視点を獲得することができます。ぜひ堤ゼミで自分の視野を広げ、ともに社会問題について考えていきましょう。

公共社会学研究 I (堤ゼミ) 矢野 想
福岡県立筑前高校出身

●地理学の視点から地域を調べ、見て歩く



美谷ゼミでは、ゼミ生の興味関心を踏まえて自分たちで選んだテキストを輪読しながら、疑問点や意見を自由に出し合い、議論する形で進められています。全員で議論した後に、先生から自分たちの理解が追いつかなかった部分や近年の動向について解説があり、より深く新しい知見を得ることが出来ます。今年度は都市問題に関するテキストを扱っています。

美谷ゼミでの特徴的な活動は巡検です。自分たちで足を運びたいエリア、ポイントを選定し、各自で分担してその地域の背景や特性などを調べ、当日は実際にその場所を回り、その目で確認します。堅苦しい調査だけではなく、特産品を食べたり、観光地へ赴いたりしてゼミならではの思い出を創ることが出来ます。

実地的な活動や事前準備が多いため、作業量はとても多いのですが、「学びの場は教室だけではない」という考えのもと、大学生としての時間も配慮され、フレンドリーな先生とゼミの仲間達と自由に学ぶことができ、始終穏やかな雰囲気です。

公共社会学研究 I (美谷ゼミ) 田村 真弥
鳥取県立米子東高校出身

●家族の多様性を学ぶ



阪井ゼミでは家族社会学を専門とする先生のもとで、ジェンダー、LGBT、恋愛、結婚、子育て、介護、離婚などについて考えていきます。

3年生の前期は、『家族の幸せ』の経済学』(山口慎太郎

著)や『断片的なもの社会学』(岸政彦著)という文献の輪読を行いました。1人1人文献を読み、要約や読んだ感想、疑問点、考察などを記したレジュメを作成し、講義内で発表、そしてそれをもとに全員でそのテーマについてディスカッションを行っていくというものです。加えて、ゼミ生それぞれの実体験や、映画、ドラマ、音楽などを参考に議論が行われることも多くあるので、人前で話すことが苦手な人や、難しそうだと感じている人にとっても、良い意味でラフに議論することができ、楽しんで学ぶことができると思います。そして阪井先生はどんな意見でもそれぞれの考えとして尊重し、受け止めてくださるのでとても発言しやすく、全体を通して穏やかな雰囲気です。

「生きづらさ」が可視化されてきた現代社会において欠かせないテーマを自分事として学んでいけるので、ゼミで得た学びが実生活にも還元され、自分の生きる社会の見方や心持ちが格段に変化していく実感を得られる、そんなゼミだと考えています。

公共社会学研究 I (阪井ゼミ) 藤川 夏海
福岡県立鞍手高校出身

●地域や農村、福祉に関して学ぶ



福本先生は地域社会学、環境社会学、農村社会学が専門ですが、ゼミには福祉社会学のテーマに関心がある学生もおり、学生一人一人に寄り添った指導をしてくださいます。

ゼミでは、卒業論文の進捗状況を毎回報告して、先生からだけでなく他のゼミ生からもアドバイスをしてもらいます。福本先生は、それぞれに足りない部分を丁寧に指摘してくださるため、その後深めていくべき内容を見つけることができます。私は災害社会学をテーマとして卒業論文を執筆しています。福本先生が専門とされている環境社会学には、災害社会学の要素も含まれているため、参考になる本や論文を紹介してくださり、より良い卒業論文にするためにサポートをいただいています。

ゼミの時間は、他の学生からも刺激を受けて、新しい発見や気付きを得ることができ、とても有意義な時間になっています。皆さんも是非、自分に合った先生やゼミを見つけてください。

卒業論文指導(福本ゼミ) 阪本 美聡
熊本県立大津高校出身



堤 圭史郎
Keishiro Tsutsumi

【専門】社会問題と逸脱の社会学・都市社会学

【略歴&研究内容】

大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。博士(文学)。2010年より本学に勤務。

これまでホームレス問題に関する研究、生活困窮者支援モデルに関する研究などを行ってきた。現在は、生活困窮者自立支援制度に基づく「排除と差別」に抗する地域社会づくり、福岡市

や北九州市におけるコミュニティ状況把握、農村部における持続可能な地域生活文化圏のありかたについて調査研究を進めている。

【主な業績】『社会再構築の挑戦地域・多様性・未来』ミネルヴァ書房(分担執筆、2020年)、『さまよえる大都市・大阪―「都心回帰」とコミュニティ』東信堂(分担執筆、2019年)、『生活困窮者への伴走型支援―経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』明石書店(共著、2014年)、『ホームレス・スタディーズ―排除と包摂のリアリティ』ミネルヴァ書房(分担執筆、2010年)など。

【担当科目】社会学A・B、社会病理学、社会変動と社会問題、社会調査実習Ⅰ・Ⅱなど。



美谷 薫
Kaoru Mitani

【専門】人文地理学・地域行政論

【略歴&研究内容】

筑波大学大学院博士課程生命環境科学研究科修了(博士(理学))。宇都宮市職員などを経て2016年4月に本学に着任。

学部生時代から市町村合併に関心を持ち、合併という行政の枠組みの変化がその地域にどのような影響を及ぼしてきたのかについて、予算や人員といった行政の資源配分(具体的には事業費の配分や職員の配置など)に着目して研究してきました。

また、地方公務員時代には、主に、上下水道の部局で、事業の方針や計画を策定したり、予算の編成・管理を行う仕事などを担当していました。

今後は、「平成の大合併」と呼ばれる全国的な市町村の再編後10年強が経過することから、引き続き、合併に伴う行政の仕組みの変化やその結果としての地域社会・地域経済の変容を、丁寧な実態調査に基づいて明らかにしていきたいと考えています。

【主な業績】『地方行財政の地域的文脈』古今書院(共編著、2012年)、『ローカル・ガバナンスと地域』ナカニシヤ出版(分担執筆、2017年)など

【担当科目】地理学、地理学概論、地域社会分析法C、地方自治論、地域計画論、社会調査実習Ⅰ・Ⅱなど



阪井 裕一郎
Yuichiro Sakai

【専門】家族社会学・歴史社会学

【略歴&研究内容】

慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了(博士(社会学))。慶應義塾大学などで非常勤講師、日本学術振興会特別研究員PDを経て、2017年4月より本学に着任。

これまでおこなってきた主な研究内容は、1)日本の家族や結婚に関する歴史社会学的研究、2)事実婚や同棲といったパートナー関係についてのインタビュー調査です。

近年の家族研究では「多様化」が重要なトピックとなっています。シングルペアレントやステップ・ファミリー、里親・養子縁組、LGBT、生殖補助医療、シェアハウジングなど、従来の枠組みには収まらないさまざまな「家族」や「共同生活」に注目が集まっています。家族の歴史・現在・未来について、学生たちと一緒に考えていきたいと思っています。

【主な業績】『入門 家族社会学』新泉社(共著、2017)、『現代家族ベディ』弘文堂(共著、2015)、『境界を生きるシングルたち』人文書院(共著、2014)など

【担当科目】家族社会学A・B、コミュニティ論、公共性の社会学、社会調査実習Ⅰ・Ⅱなど



福本 純子
Junko Fukumoto

【専門】地域社会学・環境社会学・農村社会学

【略歴&研究内容】

早稲田大学人間科学研究科修士課程を修了(修士(人間科学))。熊本大学大学院社会文化科学教育部博士後期課程単位取得退学。下関市立大学経済学部特任教員(地域貢献担当)等を経て、2021年に本学に着任。

農山村地域へのフィールドワークを中心に、地域住民の方々にお話を聞きながら研究を進めています。主な研究

テーマは以下の2つです。1つは、再生可能エネルギーとしての小水力発電です。農山村にある小水力発電について、地域での位置や役割を分析し、持続可能な地域づくりの方法を探求しています。もう1つは、過疎農山村の地域課題です。特に農業に関する課題(耕作放棄地、獣害、担い手問題など)に焦点をあてて分析し、これからの日本の農山村のあり方について考えています。

【主な業績】『生活環境主義のコミュニティ分析―環境社会学のアプローチ』ミネルヴァ書房(分担執筆、2018年)、『生産基盤縮小にみる集落の自律的再編―広島県庄原市の中山間地域における稲作の縮小を事例として』『熊本大学社会文化研究』17(2019年)など

【担当科目】地域社会学A・B、社会調査の設計、福祉社会学など

ゼミ&教員紹介

●ジェンダーや統計について学ぶ



坂無ゼミでは、先生の専門であるジェンダーや統計に関する内容を取り扱います。現在は、3年生3人と4年生3人の計6人合同で進めています。先輩の研究や発表から学ぶことが多く、自分の1年後のイメージが湧きやすいため、非常に勉強になります。

現在は、『情報生産者になる(上野千鶴子著)』という本を読んでいます。論文の書き方について様々な知識を学ぶことができ、卒業論文に活かすことが出来ます。4年生では、先生の専門であるジェンダーに関する本を読む予定です。読んだ内容は、各章に担当分けをしてレジュメを作り、発表や議論を行います。

坂無先生は議論を楽しむことに重点を置いています。司会や進行も自分たちで行い、より発言しやすい議論を行うことが出来ます。議論が行き詰まったら先生が助言をくださるので、学生は積極的に自分の意見を言うことが出来ます。6人という少ない人数ですが、少人数ならではの温かい雰囲気や親しみやすい場があります。

坂無ゼミには、ジェンダーや統計に興味がある人は勿論、これ以外のテーマにも興味を持ち、そのテーマで卒論やレポートを書くようとしている人も沢山います。自分の興味のある分野に対して、様々な視点から意見をもらうことができる貴重なゼミだと思います。このゼミでの活動を通して、自分の考えの幅を広げ、新たな自分の可能性を見つけてみてください。

公共社会学研究Ⅰ(坂無ゼミ)

砂場 寛太 岡山県立岡山一宮高校出身
西尾 悠希 佐賀県立鳥栖高校出身



坂無 淳
Jun Sakanashi

【専門】社会学・ジェンダー研究・社会調査法

【略歴&研究内容】

北海道大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。山形大学男女共同参画推進室、立教大学コミュニティ福祉学部助教を経て、2017年4月に本学着任。

私の専門は社会学とジェンダー研究です。主に社会調査でデータを集め分析することで、社会学的に何が明らか

になり、また、どのようにジェンダー平等を達成できるかを研究しています。そのスキルの一つである統計分析は、無味乾燥で苦手意識のある方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、そのデータの背後には回答してくれた人の生活があります。データをとる、仮説を検証する、新しい発見が生まれる、データをもとに他の人と議論することは楽しく、また今後、色々な場面で役立つはず。皆さんと一緒に勉強できるのを楽しみにしています。

【主な業績】『社会はこうやって変える！——コミュニティ・オーガナイズング入門』(分担翻訳, Matthew Bolton, How to Resist: Turn Protest to Power, 法律文化社, 2020). 「大学教員の研究業績に対する性別の影響」『社会学評論』65(4): 592-610, 2015ほか

【担当科目】統計学、データ分析の基礎、社会統計学Ⅰ・Ⅱ、ジェンダー論、社会調査実習Ⅰ・Ⅱなど

●情報化社会の課題と可能性を学ぶ



石崎ゼミは、保健福祉の分野における諸問題に対して、主に統計的手法や情報技術を使って問題解決を目指していくゼミです。毎回、ゼミ生でそれぞれの研究テーマの小レポートを発表しゼミ生同士や石崎教授と質問し合い、さらなる課題を発見していく作業を行っています。

石崎ゼミでは保健福祉のみではなく、保健、医療、福祉、教育、心理、社会、経済など保健福祉に関する多くの分野について課題解決に取り組むことができるので、自分のやりたい研究分野がはっきりしている方は、石崎ゼミで探究していくことをお勧めします。

石崎教授は、物質の物理的性質を原子や分子レベルの構造に基づいて統計力学を使って解明していく物理学を専門としており、講義や演習で数学、情報処理、統計科学などの専門的分野について詳しく教えてください。

現在、石崎ゼミでは個人の研究と並行してAIについての研究もを行っています。

みなさんも石崎ゼミで、数学や情報の世界に触れてみませんか??

公共社会学研究Ⅰ(石崎ゼミ) 宮原 栄滋
福岡県立朝倉高校出身



石崎 龍二
Ryuji Ishizaki

【専門】統計科学、数理物理・物性基礎論

【略歴&研究内容】

九州大学大学院理学研究科博士課程修了(博士(理学))。

自然や社会の現象を数理的に理解するためのモデル構築とその解析や新しいデータ解析法の開発などを行っています。最近是非定常時系列に対するパターン・エントロピー時系列による解析と応用に取り組んでいます。

抽象的な数理モデルの計算が多く、

何を目的にして研究をしているのかわかりづらいと思いますが、対象とする現象の背景にある規則性・法則性の発見を目指しています。

講義・演習を通して、数学、情報処理、統計科学の面白さを伝えていきたいと考えています。

【主な業績】

1. Ryuji Ishizaki, Masayoshi Inoue, "Time-series analysis of multiple foreign exchange rates using time-dependent pattern entropy", Physica A, Vol.490, No.15 pp. 967-974, 2018.
2. 駒澤勉・橋口捷久・石崎龍二『新版 パソコン数量化分析』, 朝倉書店, 1998年.

【担当科目】情報科学、情報数学、プログラミング概論、

データ処理とデータ解析Ⅰ・Ⅱなど

教職課程・教育実習

●教職課程の学びを成長につなげる

教職課程では、少人数制で充実したサポートのもと、教育分野の基礎や授業を実践する上で必要な知識、技能を学ぶことができます。1・2年次では教育学の基礎を学び、3年次では模擬授業として実際に50分間の授業を行うことを経験しました。模擬授業では、授業準備段階での学習指導案づくり、授業を実践したあとのカンファレンスを通じて、自分だけでは気付くことのなかった問題点や課題を発見し、次回以降への改善につなげました。学びは大学内にとどまりません。2・3年次には社会福祉施設や特別支援学校での介護等体験を通じて、講義だけでは学べない貴重な体験を得ました。また、3年次の学校インターンシップでは中学校の教育活動に実際に参与することで、現職の先生方の授業や生徒とのかかわり方に接して実践的な学びを重ねました。

入学当初は教育に関する知識もなく、短い時間の発表を行うだけでも声量、視線、表情、話す内容などに多くの課題がありました。しかし、同じ教職課程履修の人たちと切磋琢磨しながらこの4年間で大きく成長できたのではないかと思います。今年度の教育実習は感染症対策をとりながら、なんとか予定通り行うことができました。実際に中学校で授業を行うことには緊張を伴いましたが、同時に自分が

教職課程で学んだことが無駄ではなかったことを感じることもできました。

福岡県立大学の教職課程を履修することで、教職の楽しさと厳しさの両方を学ぶことができました。相手に何かを伝えるということは教職にとどまらず汎用的で大切な能力です。この教職課程で学んだことを将来に生かしていきたいと思えます。

中・高教職課程履修 公共社会学科4年 澤野 陸
福岡県立小倉高校出身



教職課程専任教員一覧(中学校社会・高校公民)

| | |
|--------|---|
| 許 棟翰 | アジア経済論、経済学 |
| 岡本 雅享 | 政治学、国際政治学、多文化社会論、東アジア関係史 |
| 堤 圭史郎 | 社会病理学、社会調査実習Ⅰ・Ⅱ |
| 福本 純子 | 地域社会学A、社会調査実習Ⅰ・Ⅱ |
| 陸 麗君 | 都市社会学 |
| 阪井 裕一郎 | 家族社会学A、コミュニティ論、社会調査実習Ⅰ・Ⅱ、地域社会分析法A |
| 美谷 薫 | 地理学、地理学概論、地方自治論、社会調査実習Ⅰ・Ⅱ、地域社会分析法C |
| 坂無 淳 | 社会調査実習Ⅰ・Ⅱ、データ分析の基礎 |
| 佐野 麻由子 | 社会学概論、国際社会学A、NPO論、社会調査実習Ⅰ・Ⅱ、国際協力論 |
| 石崎 龍二 | 教育方法と情報技術、データ処理とデータ解析Ⅰ |
| 藤澤 健一 | 教育学概論B、教育史、教師論、教育の方法と実践、教育実習事前事後指導(中高)、中学校教育実習、高校教育実習、学校インターンシップ、教職実践演習(中高) |
| 岩橋 宗哉 | 教育相談 |

社会調査実習

「田川市のまちづくり一駅前整備・商店街・観光事業に関する調査」

社会調査実習は、10人程度のグループに分かれてそれぞれでテーマを設定し、インタビューや質問紙調査の企画から実施、得られたデータの分析、報告書の作成に至るまでを学生が主体となって行う実習の授業です。今年度は、「循環型社会形成のための田川市民の意識・ニーズの調査」、「田川市のまちづくり一駅前整備・商店街・観光事業」、「コロナ禍による仕事・生活の変化と諸対応」の3つのグループで調査を進めています。



市役所の職員の方からの講義

「田川市のまちづくり一駅前整備・商店街・観光事業」をテーマとする私たちのグループでは、福岡県立大学のキャンパスがある福岡県田川市の現状を把握した上で、観光や地域政策を論点としながら、田川市の「まちづくり」における課題と実践的な解決策についての検討と調査を行っています。私が所属しているグループの担当の先生が、田川市にある鉄道駅「田川後藤寺駅」の再整備に関する団体、後藤寺駅前整備検討会の副会長を務めているため、そこでの参与観察調査を中心に調査をしています。

ここまでの実習では、受講生間で意見交換、ディスカッションを行うだけでなく、前述の検討会による市民ワークショップに参加して一般市民の方々との議論を行ったり、田川市役所の都市計画課の担当者をお招きし、田川市がこれまで実施してきた施策の経緯や今後のビジョンについて聞き取り調査を行ったりしてきました。今後は、まちづくりの専門家の方や地域計画家の方へのインタビュー調査を通じて、さらに知識と見識を深めていく予定です。その結果を踏まえて、年度内に報告書を執筆することになっています。

調査の方法については、学科の授業で学びますが、実際にそれを自分たちの手でやってみるのはなかなか大変だと感じています。また、細かい作業も多いのですが、高校までとは大きく違って、自分たちで一から資料やデータを作っていくのは、大学の授業ならではの作業であるとも思います。

私は、この社会調査実習を通じて、地域社会の現状や課題を見極める方法を身につけ、それを今後行う個人研究に活かしていきたいと思っています。この能力は、現代社会を生きていく上でも重要なものだと思いますので、公共社会学科に入学した際には、ぜひ実習に参加して大学らしい学習の経験をしてください。

社会調査実習（阪井グループ） 佐藤 涼央
沼津市立沼津高校出身



調査項目の整理風景

国際交流プログラム・交換留学

大邱韓医大学への交換留学によって精神面でも大きく成長！

留学当初は授業に全くついていけず、何をすることも1人では解決できないことの連続でした。その状態から脱却するため、人との繋がりが最も重要だと考え、多くの人と交流出来る機会を逃さないよう努めました。知り合いが誰もいない講義であっても、受講



して近くに座っている人に話しかけたり、他大学の学生とも積極的に交流しました。また、友人の紹介で化粧品学科の教授とも知り合いになり、一緒に日帰り旅行へ行ったりもしました。自分とは異なるバックグラウンドを持つ沢山のひととのこうした交流は、何となく敷いていた人生のレールが1つではないことを、私に教えてくれました。

留学によって語学力の向上だけでなく、精神面においても大きく成長することができました。すべてが初めてだらけの生活下にあったからこそ、それを培うことが出来たと実感しています。自分がしたいと思ったことに挑戦し、自分なりに困難を乗り越えていった経験は、何にも変えがたい財産です。この経験を胸に、次のステージへ向かって突き進んでいきたいと思っています。

公共社会学科4年 深田 真央
大分県立別府鶴見丘高校出身

新しい自分に出会わせてもらい、一生の友達も出会う！

私は、コロナウイルスの世界的感染が始まった頃に三育大学校に留学をしたため、周りに日本人は一人もおらず、友達もすぐにはできなかったのが、最初は辛い日々を送っていました。しかし、寮の友達や他の外国人留学生、先生方が助けてくれ、たくさんの愛をもらった1年になりました。



毎週土曜日には大学内にある教会に行き、国籍や宗教に関係なく、様々な国から来た友達と交流しました。そこでは、お互いを理解し、受け入れることを学びました。また、そんな友達との生活の中で、助け合うことや思いやりを持つことの大切さを改めて感じ、自分を見直すことができました。この留学で私は好きな自分に生まれ変わった気がしています。

留学の経験は、私に、語学力やお互いを理解する大切さだけでなく、新しい自分にも出会わせてくれ、一生の友達も与えてくれました。この1年間は宝物です。

これからは、この経験を生かして、その友達に負けずに、頑張ろうと思っています。

公共社会学科3年 井上 歩美
宮崎学園高校出身

交換留学協定校

中国



南京師範大学（江蘇省南京市）



吉林大学珠海学院（広東省珠海市）

韓国



大邱韓醫大（大邱市）



三育大学校（ソウル市）



威徳大学校（慶州市）

キャリア支援プログラム

公共社会学科では専門教育と連動したキャリア支援プログラムを設けています。本学科で学んだ公共性や地域社会・国際共生に関する専門的な知識、リサーチや分析能力を、各自のキャリア形成を展望しながら応用し、活用するためのプログラムです。

学生はそれぞれの進路希望に応じて自由にプログラムを選択できます（必ず1つは選択、複数の選択も可）。

なお、大学内のキャリアサポートセンターと連携し、組織的に就職情報の収集を行い、企業インターンシップの促進など学生のキャリア支援を強化します。

1. 社会調査士資格取得支援プログラム

社会調査は生活の実態や社会的課題を明らかにする技術です。たとえば、市町村が何かの計画を立てようとする際の住民ニーズの把握や実現方法の選定に用いられます。そして、社会調査の技術の基礎を習得している人に与えられるのが、一般社団法人社会調査協会が認定する「社会調査士」資格です。資格取得に必要な科目は公共社会学科のカリキュラムに全て含まれています。キャリア支援プログラムでは、社会調査の応用——授業や実習で習得したデータ収集・分析とそれに基づく企画能力が企業や行政などでどのように利用されているかなど——について認識を深めるとともに、社会調査協会や日本社会学会の最新の動向を情報提供し、資格申請手続きを円滑に行えるよう指導します。

2. 教職免許取得支援プログラム

公共社会学科では高等学校教諭一種免許状「公民」と中学校教諭一種免許状「社会」が取得できます。本学科では、現代社会の諸問題の分析と高度福祉社会構築への実践的提案力を活かして子どもの教育に独自の貢献をすることができます。

カリキュラムとは別に、職業としての教職という側面から関連する情報を提供し、互いに意欲を高めあって進路選択に活かせるよう支援していきます。次の2項目を目標にします。

- (1) 教職の現状（学校現場、教職の展望等）について認識を深める。
- (2) 教員採用試験の受験準備をする。

3. 情報処理関係資格取得支援プログラム

上級情報処理士

本学の所定の単位を修得すれば、上級情報処理士の資格を取得することができます。上級情報処理士は、全国大学実務教育協会が認定する資格です。次の4点が教育目標となります。

- (1) 高度な情報処理技術の応用を身につける。
- (2) ビジネスで活用されるソフトウェア技能の応用を身につける。
- (3) プレゼンテーション能力の応用を身につける。
- (4) オフィスの組織や情報の流れを活用する技能を身につける。

上級情報処理士の資格を取得することは、以上のコンピュータを使いこなせる技術が身についたことの証になります。

キャリア支援プログラム

マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)

本学は、隣接するたがわ情報センターと連携し、MOS資格取得講座を開講しています。MOSはエクセルやワードなどのマイクロソフトオフィス製品の操作スキルを証明できる資格です。マイクロソフトオフィスは、現在、多くの職場で活用されている代表的なアプリケーションソフトです。

この認定資格は、企業での認知度が高いため、就職活動前に取得しておきたい資格です。

4. 公務員受験支援プログラム

公共社会学科では、公共性の社会学やコミュニティ論、地方自治論など、地域社会や地方自治について学ぶさまざまな専門科目を開講しており、学科の目標や学習内容から、特に地方公務員はキャリア形成を考える際の選択肢の一つだと言えます。

全学的には、2・3年生を主な対象とした教養試験対策講座が開設されており、本学科の公務員志望者にもこの講座を受講するように勧めています。また、地方自治体の現場でのインターンシップを経験する学生も多く見られます。

学科独自のプログラムとしては、公務員志望者向けの履修モデルを提示したり、近隣の自治体職員の方や官公庁に就職した学科のOB・OGを招いて、業務内容や試験対策について何うセミナーを実施しています。

学科で開設している科目においても、自治体研究の手法を取り上げるものや、実際にフィールドに出て地域の課題を明らかにする実習科目などもあり、これらを受講することで二次試験以後の対策にもつながるように指導しています。



公務員受験支援プログラム「先輩に聞いてみよう」
講師：うきは市役所 麻生 真由(2017年卒)

5. ビジネス・スキル修得支援プログラム

(1) 自己分析入門講座

就職活動は「自分がどのような個性をもった人間なのか」を客観的に把握することが求められます。採用側の企業はあなたの長所をどのように活かすことができるかを面接でみています。本講座では、キャリアサポートセンターと協力し、自分の長所・短所を知るためのグループワークを行います。講座を通じて「知らなかった自分」を発見する機会となることでしょう。

(2) 履歴書の書き方講座

履歴書用紙を手にとると生年月日・学歴に加え、「得意な分野」、「在学時に力を入れてきたこと」等の欄があることに気づきます。履歴書を書くためには、学生時代の学びの姿勢とその内容を、他者にわかりやすい言葉で説明することが必要です。本講座では、あなたが書いた履歴書を実際に添削することで、「読み手に伝わる履歴書」に向けたブラッシュアップを行います。

(3) 業界研究入門講座

一口に企業といっても業種はさまざまですし、同じ企業でも多くの職種から成り立っています。求人方法・労働条件も業界や企業規模で異なります。皆さんはこうした多様な選択肢の中から自分の特性や将来の方向に沿った企業を見つけ出すことが求められます。本講座は、専門家のアドバイスの下、企業の特徴、就職・求人状況を学び、主体的な業界研究の方法を身につけることを目標とします。

(4) 個別相談・面接研修

具体的な就職活動を行っている学生に対するキャリアカウンセリングを、外部専門機関の大学生等就職支援事業を活用して実施しています。学生一人ひとりの状況やニーズに合わせて個別相談(求人情報の提供を含む)と面接研修を行い、各自の特性や今後の展望に応じた企業選択ができるよう支援します。

活躍する卒業生

JA福井県(福井県農業協同組合) 藪内 みき(2017年卒)

私は地元の福井県にUターンして旧JA福井市に就職し、現在はJA福井県(福井県農業協同組合)で働いています。総務部トータルサポート推進課という部署で、農家に配布される広報誌「ふくふる」を作ったり、HPやSNSの運用、日本農業新聞(農家や市場関係者などが読む全国紙)に記事を出稿するなど、主に広報業務を担当しています。大学の授業で一村一品運動など地域活性化について学んだとき、農産物を使った地域振興に興味を持ち、そういう活動に携わりたいと思って就職活動をしました。

今は一眼レフカメラを持って管内の取材活動をしています。最初はどんな質問をしたらよいのかも分からず、取材はしたけれど記事の書き始めやまとめ方が分からない、なんてこともありました。だけど、広報誌を読んだ方から直接声をかけてもらったり、日本農業新聞に記事が大きく掲載されるととても嬉しく、仕事のモチベーションアップに繋がりました。写真技術や文章能力を高めることはもちろん、農業・JAをもっと知ってもらうためにはどうしたら良いのか、日々奮闘しています。

昨年は、日本農業新聞の通信員として積極的に取材活動を行い、紙面の充実に尽力したとして、近畿・北陸地区の通信員の中から優秀賞をいただき、さらにやる気が高まりました。これからも福井県の農業を盛り上げていく一員として、福井県内外にたくさん情報を発信していきたいです。



JA福井県本店にて、いつも持ち歩いているカメラと一緒に

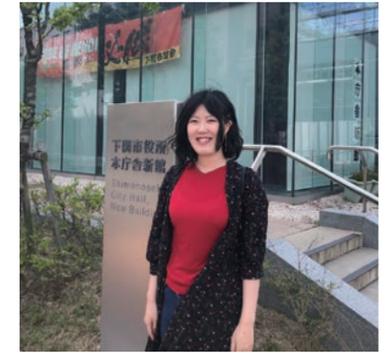
下関市役所 高木 梓沙(2016年卒)

私は海外の文化を学ぶことが好きで、在学中はヨーロッパの国々に旅行に行ったり、中国の南京師範大学で1年留学したりと、様々な国を見て回りました。その経験から、これまで気がつかなかった地元の魅力に気づき、地元で貢献できる仕事に就きたいと考え、公務員試験を受けて、生まれ育った山口県下関市で市民の生活を支える市役所に就職しました。下関市は、壇ノ浦の戦いや下関条約等、歴史豊かな町で、特に今年は、維新発祥の地として、明治維新150周年に関連した事業に力を入れています。関門海峡に面した自然豊かな町で、新鮮な魚介が楽しめる唐戸市場が有名です。

そんな下関市役所で私が所属しているのは、総合政策部情報政策課です。情報政策課は、IT推進施策に関する業務や電子計算組織に係る業務を行っています。システムが正常に動いていないと、証明書の発行や情報の入力等、様々な業務ができなくなるので、システムに異常が発生した際には、夜中や休日にも駆けつけて対応しなければならない大変な業務ですが、やりがいも大きいです。滞りなくシステムが稼働するよう管理・調整するには、他部署の協力が必要不可欠です。関係者の理解・協力を得て、効率的に業務が行えるよう、現在は説明力を身につけるこ

とを目標に努力しています。

市役所は数年毎に部署異動があります。どの部署に移っても、地元のためになる仕事をしたいという初心を忘れず、誠実に業務に向き合っていきたいです。



市役所本庁舎新館前にて

韓国釜山市PAGODA語学院日本語教師 窪田 あかね(2017年卒)

私は2017年春、ベトナムのホーチミン市にある日本語学校に就職し、約1年半働いたあと、2019年に韓国の釜山にある語学学校に就職しました。ホーチミン市では文法を教えていましたが、釜山では会話を担当することになりました。生徒は、日本の文化に興味がある人や、趣味で勉強している人、日本にワーキングホリデーに行きたい人など様々です。

私は在学中からアジアの国々に興味があり、将来は海外で働きたいと思っていました。国際関係や歴史、語学の講義を進んで受けました。日本語教師を目指すきっかけは、韓国ソウルの協定校、三育大学で交換留学生として学んだ際、素敵な韓国語の先生と出会い、私もその先生のように留学生の役に立ちたいと思ったことです。帰国後、学外の日本語教師養成講座に約1年通い、4年生の時は福岡で日本語学校の非常勤講師も勤めました。

釜山での生活はとても楽しいですが、仕事は大変です。授業の準備にかなり時間がかかり、なかなか自分の時間が持たなくて、辛い時もあります。でも、授業で生徒達がかかった時に見せる笑顔がとても嬉しくて、大きなやりがいを感じます。昨日よりいい授業、明日は今日よりいい授業を心がけて、毎日挑戦しています。私の夢は、留学生に技術的に日本語を教えるだけの教師でなく、彼・彼女らの理解者になることです。そのため、しばらくはアジアの国を回り、教師としての経験を積みながら、各国の言葉や文化を学んでいくつもりです。



PAGODA語学院にて

活躍する卒業生

福岡県庁 宮本 瑛介(2015年卒)

私は福岡県職員に採用され、今は県庁商工部の新事業支援課で、デザイン開発ワークショップ、農商工連携、庶務の業務に従事しています。

デザイン開発では、県内中小企業のデザイン力の向上を図り、付加価値の高い製品の開発を促進するために、大学の先生や県内外で活躍されているデザイナーを講師に迎え、デザインについて学ぶワークショップを実施しています。

大学入学前から公務員を志望しており、在学中、大学主催の公務員講座を受講していました。学生時代を思い出すと、ハワイやイギリスでの短期留学、サークル活動など楽しい思い出ばかりです。多くの人々と交流したことで、視野が広がり、多面的な考えが出来るようになりました。これらの経験は、今の仕事にも役立っています。

県職員は定期異動で様々な部署に異動します。以前は福祉事務所で、生活保護のケースワーカーをしていました。生活保護を受給している家庭を実際に訪問し、現状に沿った支援を行う仕事です。異動で全く別の分野に移り、また一から勉強しなければなりません、新しいことに携われるため、刺激的な毎日を過ごしています。

今後も様々な部署で活躍できるよう頑張っていきたいと思っています。



福岡県庁商工部新事業支援課にて

株式会社リーガルコーポレーション 高橋 つぐみ(2019年卒)

私は靴の企画・開発、製造・販売を行う(株)リーガルコーポレーションに入社し、現在はグループ会社の(株)リーガル販売で営業職をしています。一言に営業と言っても、その内容は多岐にわたり、売場に立つ販売スタッフの教育・マネジメントから商品の提案、販促・フェアの企画や在庫・売上管理などです。

自分の裁量で出来る事が多い分、責任は大きいのですが、お取引先様との商談が成功して販売に結び付いた時や、販売スタッフから頼りにしてもらえる時には、やりがいを感じます。商談の席では、在学中に履修した教職課程や講演会を企画した経験、イギリスや韓国の大学での研修経験などが、今の自分のコミュニケーション力やファシリテーション力など、話す力に繋がっているなど実感することがあります。

大変な時もありますが、職場では上司や先輩が「こうしたい!」という私の提案を実現するためにサポートして下さるので、仕事がとても楽しく、この会社に入って本当に良かったと感じます。将来は営業職で培った知識や経験、会社を超えた繋がりを活かして、今以上に魅力的な靴の企画や提案をしたいと考えており、そのためにも今後も先輩方が私にしてくださったように、心遣いや感謝を忘れずに仕事に取り組んでいきたいと思っています。

私たちには「靴を通して、お客様に、足元から美と健康を提供する」と

いう事業ミッションがあります。靴はファッションアイテムであるとともに、皆さんの健康を守る必要不可欠なアイテムです。これからも一人でも多くのお客様に弊社の靴を履いて日々の生活を豊かにしていただくために頑張ります。



自社ショールームでの商談の様子

北九州市消防局 内田 ななみ(2018年卒)

私は北九州市消防局に就職してから3年間、消火隊として火事などの災害業務にあたり、今年度から救急隊として救急業務に携わっています。119番番で救急要請があれば、いつでも現場に向かい、処置や病院への搬送をする傍ら、救命講習や避難訓練、立入検査など、予防に関わる業務も行っています。

火事や救急はいつ起こるか予測できず、24時間体制で備え、夜中の出勤があれば、仮眠をとることもできません。道幅や消火栓の位置から地理や救急、医療に関する知識まで覚えるべきことは多く、常に逼迫した状況で、現場では臨機応変の活動が求められます。最初は大変でしたが、搬送した人が元気になり、お礼を言われた時など、とてもやりがいを感じます。救命講習等での市民との交流も、良い経験になっています。

在学中の講義ではグループワークもあり、交友関係を深めながら、いろんな考えをもつ人がいることを知り、視野が広がりました。現代社会の様子を学んで、現場の状況を想像できるのは、今の仕事に活かしています。卒業後の道が限られていない学科で、自分のペースで道を探すこともできました。就職に関する講義でのバックアップもあって、安心して就職活動に挑めました。大きい大学でない分、大学内の交友関係も持ちやすく、仲が深められました。

消防士といえば、男性のイメージが強いと思いますが、女性ができる業務はたくさんあります。私が働いている姿を見て、女性が活躍できる職業が増えていることを、多くの人に知ってもらいたいです。



勤務終了後に

北九州市立小倉総合特別支援学校 鬼塚 正人(2016年卒)

私は現在、北九州市の特別支援学校の教員として、基礎疾患や肢体不自由のある児童生徒が通う特別支援学校で中学部1年生の担任をしています。身体機能や知的発達、認知面など、子ども達の様々な実態に応じて、自立と社会参加に向けた支援や指導を行っています。

元々、中学校の教員を志望していましたが、大学在学中の、地域の小中学校でのボランティア活動の中で、個々の学びにくさや生活のしづらさを抱えている児童生徒に出会い、その原因や必要な支援について自分なりに考えるようになりました。そして、特別支援教育についての専門性を高め、特別支援学校や特別支援学級で障害のある子どもたちの学びに携わりたいと考えました。そこで、県立大学の教職課程で中学校と高等学校の教員免許を取得し、卒業後は、熊本大学特別支援教育特別専攻科に進学をして、特別支援学校の教員免許を取得、北九州市の教員採用試験に合格し、特別支援学校の教員になることができました。

特別支援学校に通う重度重複障害のある生徒の中には、周囲との意思の疎通が難しい生徒がいるのが事実です。そういった中で、生徒の反応や意志の表出を引き出すための支援や環境設定を考えるのは、大変ではありますが、私が1番やりがいを感じている部分です。

また、現在は、学校現場におけるICT機器の活用の推進に力を入れて取り組んでいます。そのために、ICT機器を活用した実践研究を進んで行ったり、校外でそれらの実践を発表したりしています。

将来的には、より多くの子どもたちの教育的ニーズにこたえられるように、地域における特別支援教育の中核を担う存在になりたいと考えています。

特別支援学校で働く上で、私が大切にしていることは、常に考え、学び続ける姿勢です。障害の種類や程度に関わらず、様々な子どもたちの変化していく実態に柔軟に対応していくために、現在行っている支援や指導に満足することなく常にアップデートを続けていく教員でありたいと思っています。



授業風景

東京コンピュータサービス株式会社 岡崎 夏実(2019年卒)

私はITシステムを広く扱う東京コンピュータサービス株式会社(本社:東京)に就職し、病院の電子カルテシステムのシステムエンジニアを担当しています。看護師をしている母が、近年、医療業務の管理が電子化され、慣れないITの作業にとっても戸惑っている様子を見て、ITに不慣れな人の力になりたいと思い、この仕事に就きました。ITの知識は、医療に限らず、今後の社会や人生で必要不可欠になると私は確信しています。

在学中の授業でも、情報の連携やサービスの向上などITという言葉をよく耳にし、教育実習で行った学校で電子教材の活用が進められるなど、教育現場のIT化が導入され始めていました。公共社会学科での学びには、人と人とのつながりなど、社会に出てから役に立つ知識がたく

さん詰まっていると思います。やりたいことを見つけられる絶好の機会、たくさん悩んでよりよい選択ができるよう、応援しています!

文系からのシステムエンジニアだったので、入社当時は業務についていけないのか不安でしたが、周りの方に支えられ、少しずつ成長を感じ、今では一人で仕事を任せていただけるようになりました。できることが増えていくと、頼られることも多くなるので、嬉しく思います。最近ではコロナのワクチン予約が電子化されるなど、社会全体のIT化に進んでいることを、ひしひしと感じています。これからもIT使い方に困っている方の力になれるように、勉強を続けていきたいと思っています。



Sano Lab Homecoming Day

株式会社インデックスビジネスサービス 橋本 加奈(2014年卒)

私は、株式会社インデックスビジネスサービスで、業務コンサルティング兼プログラマーとして働いています。弊社では、「法人のお客様の働き方を進化させる」ことを理念に、オフィスの移転から、空間のデザイン設計、通信やネットワークインフラ構築、そして最新テクノロジーの導入から運用支援まで包括的なサポートを行っています。

現職の「デジタルR&D課」では、最新のICTツールを用いながら、お客様の仕事を整理したり、自動化したりする仕事をしています。いわゆる「文系」出身の私で良いのか...と思いつつも、お客様の困りごとを直接解決できること、プログラミングという新しい知識を身に着けられることに魅力を感じ、入社2年目に配属希望をお願いしました。在学中は、進学前から感じていた社会への疑問が解き明かされる感覚が面白く、様々な講義を受け、大学院にも進学しました。そこで培った「社会の常識を疑い、様々な角度から物事を捉える」という考え方や社会学の知識は、私の今の仕事に大いに役立っています。

例えばお客様の業務ヒアリングを行う際は、「お客様の言葉の裏を想像すること」を心がけています。「これは出来ない」と言われたら、「本当に出来ないのか」、「やりたくないのか」、「出来ない」と誤認しているのか等、どのような意味なのかを確認します。そうすることで、お客様が想像していないような解決方法を提示できる場合があります。今後も、「当たり前を疑う」視点を忘れずに、「みんなが今より働きやすい職場づくり」のサポートを頑張っていきたいと思っています。



業務ヒアリングの様子

カリキュラム

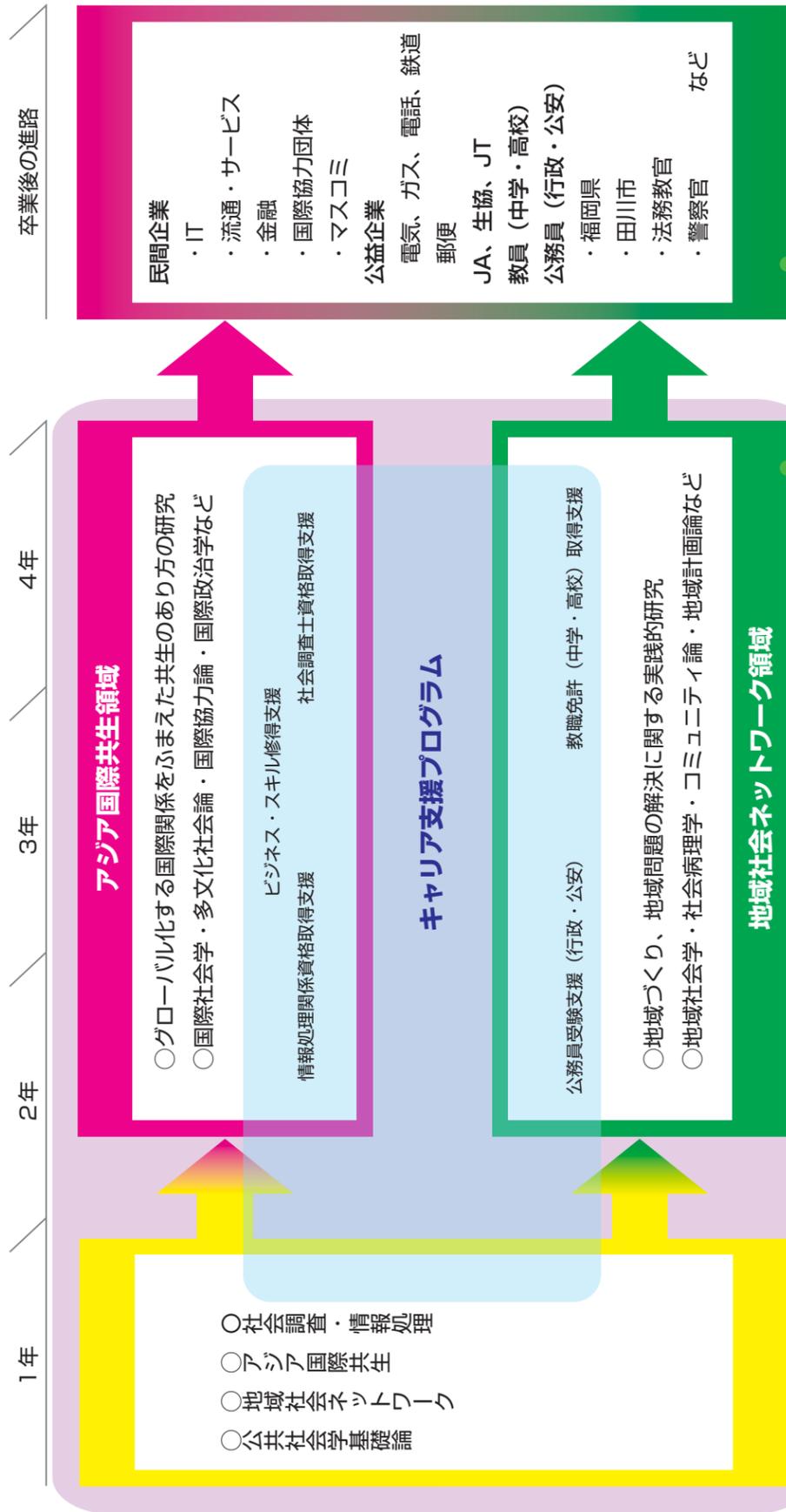
公共社会学科 専門カリキュラム

○:必修科目 ★:1・2年生選択必修科目 ☆:3年生選択必修科目 ()は再掲 2021年7月現在

| 領域 | 区分1 | 区分2 | 1年 | | | 2年 | | | 3年 | | | 4年 | |
|------------|---------------------------------------|--------------------|-------------------------|-----------------------|----------------------------------|------------------------|-------------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|-------------------------|--------------------------|------------------------|
| | | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 |
| 公共社会学基礎論 | 社会学の基礎を学ぶ 社会現象を多角的に捉え分析する | 社会学(必修コア) | ○公共性の社会学 ○社会学A(教養科目) | ○社会学概論 ○社会学B(教養科目) | ○社会学史I ★家族社会学A ★社会学B(社会学史) | ○社会学史II ★社会学C(社会学史) | ○社会学史III ★社会学D(社会学史) | ○社会学史IV ★社会学E(社会学史) | ○社会学史V ★社会学F(社会学史) | ○社会学史VI ★社会学G(社会学史) | ○社会学史VII ★社会学H(社会学史) | ○社会学史VIII ★社会学I(社会学史) | ○社会学史IX ★社会学J(社会学史) |
| | | 社会学(必修コア) | ○社会学A(教養科目) | ○社会学B(教養科目) | ○社会学C(社会学史) | ○社会学D(社会学史) | ○社会学E(社会学史) | ○社会学F(社会学史) | ○社会学G(社会学史) | ○社会学H(社会学史) | ○社会学I(社会学史) | ○社会学J(社会学史) | ○社会学K(社会学史) |
| 社会調査・情報処理 | 社会調査・情報処理の基礎と方法を学ぶ (社会調査士・上級情報処理士) | 社会調査総論 | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) |
| | | 社会調査総論 | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) |
| 地域社会ネットワーク | 地域を行政学・地理学的に捉え分析する | 地域・都市 | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) |
| | | 地域を行政学・地理学的に捉え分析する | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) |
| アジア国際共生 | アジアを軸にグローバルな視点で社会の現状と課題を考える | 社会と開発 | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) |
| | | 政治・経済文化と歴史 | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) |
| 関連科目 | いろいろな見方・考え方を学ぶ | 歴史・哲学・倫理 | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) |
| | | 教育・心理 | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) |
| 演習 | キャリア形成プログラム | 保健福祉情報プログラム | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) |
| | | キャリア形成プログラム | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) |
| 教職課程 | 教職に必要な知識・方法を学ぶ | 社会学(必修コア) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) |
| | | 社会学(必修コア) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) |
| 演習 | 演習 | 社会学(必修コア) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) |
| | | 社会学(必修コア) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) | ○社会学(教養科目) |

人文科学・社会科学・自然科学・総合科目・外国語(必須・選択)・情報処理・健康科学・基礎ゼミ・発展ゼミ

コースツアー





FUKUOKA PREFECTURAL
UNIVERSITY

福岡県立大学人間社会学部 公共社会学科

〒825-8585 福岡県田川市大字伊田4395 Tel: 0947-42-2118 Fax: 0947-42-6171

公共社会学科ホームページ <http://www.fukuoka-pu.ac.jp/academics/human/sociology/>